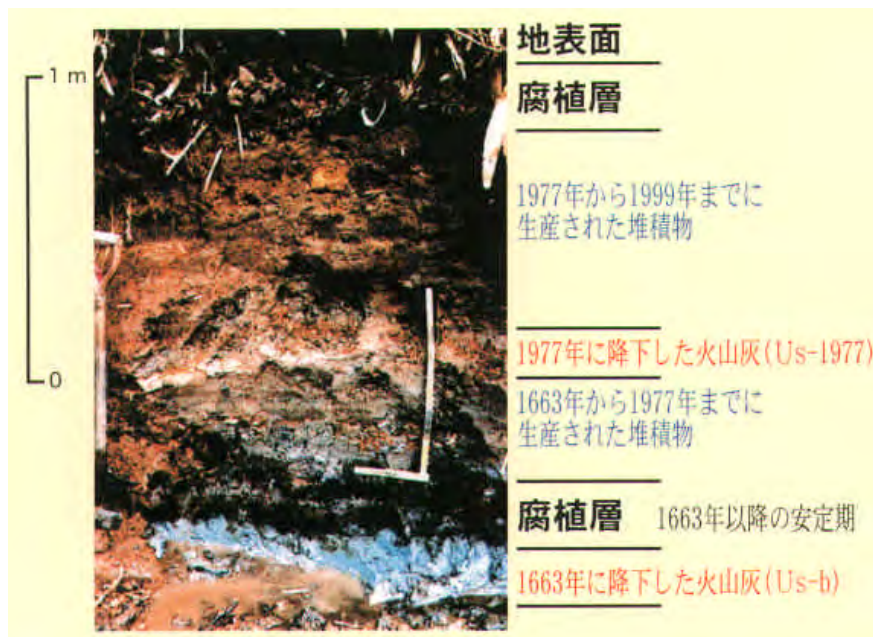


# 火山灰から土砂流出の歴史を探る

北海道には活火山が多く、活発な火山活動を繰り返しています。洞爺湖にある有珠山は 2000 年 3 月末、22 年ぶりに噴火し、大量の火山灰を噴出し周辺の地域に大きな被害をもたらしました。火山灰は一様に地表面を覆うことから、過去の土砂移動の歴史を探る上で重要な物差しになります。有珠山周辺の台地地帯でも、過去 2 回の噴火(1663 年、1977 年)により生産された火山灰が河床堆積地に観察されました(写真)。土地利用形態の異なる小流域の土層を調べ、その堆積の厚さから森林の減少や土地利用の進展により最近 20 年間の土砂堆積速度が 10 倍近く増加していることが明らかになりました(図 - 1)。このような火山灰を鍵にした土壌調査を行なうことが可能になります。



有珠山周辺で観察された土壌断面

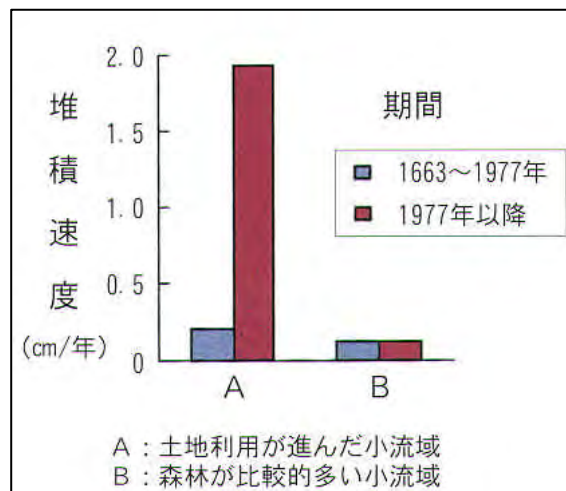


図 - 1 土地利用の違いによる過去 330 年間の土砂堆積速度の比較